

キュウリ

安全性と鮮度感でアピール!



木村 哲
キュウリ担当

直売所出荷向きの 品種選定

キュウリの直売所出荷では、何といても「鮮度」のよさをセールスポイントにできます。朝どりキュウリが食卓にのべれば、消費者の皆さんもキュウリ本来のおいしさを実感されるでしょう。さらに、耐病性品種を用いた減農薬栽培で安全性をアピールし、^{すうよう}四葉系など肉質に特徴のある品種を加えて、直売所をにぎわせてはいかがでしょうか。



フリーダー
おすすめ

安定した側枝発生と高い秀品率! ^{フイ} **Vアーチ**
ウイルスに強い多収種!

最も複合耐病性付与が進んだ「^{フイ}Vアーチ」

「Vアーチ」はうどんこ病、べと病に加えて、近年の温暖化にともない全国的に問題となっているウイルス病（ZYMV：ズッキーニイエローモザイクウイルス）にも耐病性を発揮します。また、栽培後半に発生しやすい^{かっばん}褐斑病にも強く、最も複合耐病化が進んでいるので、減農薬栽培に最適です。

側枝は短く、小葉・立性の草姿をしているので収穫や管理作業が容易に行えます。また、枝発生と連続雌花性が安定し、初期から収量が上がります。胴張りがよい果実で、曲がり果が少なく、選別作業が容易です。果肉は歯切れがよく、甘みがあって食味に優れた品種です。

耐病性のおすすめ2品種

四葉系の「シャキット」は、サクサクとした歯切れのよさと、みずみずしさを併せ持った肉質が特徴で、浅漬けに最適の品種です。

「スライス」は、欧米で一般的なスライス用の太キュウリです。肉厚でしまりのある肉質は食べ応えがあり、サンドイッチやサラダに向きます。

「シャキット」と「スライス」はともに、うどんこ病、べと病、ウイルス病（ZYMV）に耐病性があるので、減農薬栽培が可能です。

栽培型	3	4	5	6	7	8	9	10	11
トンネル									
露地早熟									
冷涼地									
夏秋									
露地晩熟									
ハウス									



←
小葉・立性で側枝が短い「Vアーチ」（写真左）は、草姿がすっきりしているので収穫・管理作業がしやすい。



フリーダー
おすすめ

病気に強く
肉厚でビッグな
太キュウリ!

^{タキイ交配} **スライス**

栽培型	3	4	5	6	7	8	9	10	11
露地早熟									
冷涼地									
夏秋									
露地晩熟									
ハウス									

タキイの耐病性キュウリを作りこなすには、何といても初期から草勢を強めに作ることにかかっています。以下にそのポイントを紹介します。

初期から草勢を強めに作るには…

灌水設備の設置 キュウリ栽培に灌水は不可欠です。特に収穫が始まってからは定期的な水分補給が必要になるので、降雨のみに頼った灌水では草勢維持は難しくなります。畑選びでは日当たりや排水性に加え、水の便も考慮しましょう。灌水チューブの使用は液肥による効率的な追肥も可能になるので、草勢維持に役立ちます。

若苗定植で活着をスムーズに進める

老化苗定植は活着を悪くするので、若苗定植が鉄則です。9 cmポットなら、本葉2.5～3枚が定植適期です。また、定植時に発根促進剤を灌水すると、活着がスムーズに進みます。



↑ 活着をスムーズに進めるため、本葉2.5～3枚の若苗を定植する。

着果節位を高くする

通常は下段6～7節までの雌花を摘花して、それ以降から着果させますが、生育初期は低温の影響を受けると雌花が多くなるので、初期の着果負担が大きくなり、草勢がつきににくくなる場合があります。これには追肥よりも摘花を行う方が効果的で、草勢が弱いと判断される時はさらに2～3節摘花して草勢の回復を図ります。

定期的な追肥・灌水 追肥は、1番果の収穫と同時に開始します。1週間に1回のペースで、粒状肥料ならチッソ成分で10㎡当たり30gを基本とし、液肥の場合はチッソ成分15gを与えます。なお、粒状肥料の場合、追肥後に灌水すると肥料が速やかにとけるので、肥効

が高まります。灌水も追肥同様に定期的に行うことが大切で、収穫開始期から1週間に1～2回行います。梅雨明け後は水分が不足するので回数を増やし、こまめな灌水を心掛けましょう。



↑ キュウリの生育途中。活着をスムーズに進めるために、発根促進剤を使用するもひとつの方法。



→ 定期的な追肥・灌水を行うことで草勢が維持できる。

作期を分けて安定多収を目指す！

近年は夏の猛暑が厳しく、一つの作型で長期間にわたり品質のよいキュウリを出荷するのが難しい状況になっています。そこで、作型を二つに分けることをおすすめします。

1作目は3月下旬まきの「トンネル栽培」、2作目の作型は定植を1カ月程度遅くする「露地栽培」です。「トンネル栽培」から「露地栽培」につなげる短期2作切り替え栽培で、長期にわたり良品多収が可能となります。

栽培ワンポイントアドバイス

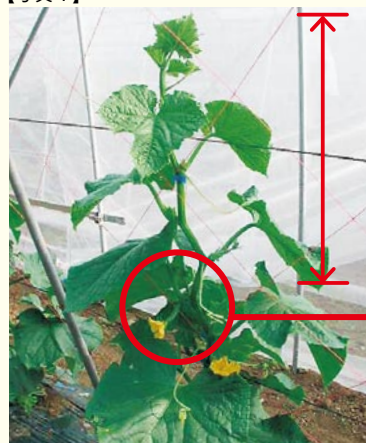
“草勢判断の勘どころ”

草勢判断は本葉15～18枚程度（定植後およそ3週間）のころに行います。

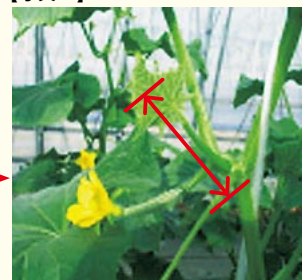
- ①雌花の開花節から生長点までに展開葉が5～6枚あれば順調で、それ以下なら弱いと判断します（写真1）。
- ②開花節から発生している側枝の長さが小指以上なら順調で、それ以下なら弱いと判断します（写真2）。

※上記2点を満たしていない場合は、摘花して着果節位を2～3節上げるようにします。

【写真1】



【写真2】



↑ 順調に草勢を維持している株。

スイカ



スイカ担当
東海林 靖
とうかいりん やすし

“見て楽しい売り場”を目指そう！

直売所出荷向きの品種選定

スイカは日本の夏の風物詩です。冷やしたスイカのみずみずしい果肉を“シャキッ”と頬張る爽快感が、夏の食卓を豊かに彩ります。

スイカは“紅色の淡雪を食らふがごとし”と古くから詠われたように、その独特の“シャリ感”や“やわらかな口どけ”が日本人に親しまれてきました。しかし昨今は、長距離輸送の流通体系の中、果肉がかたく

て店もちのよい品種が台頭し、スイカ本来のおいしさは失われつつあります。

そのような中、地産地消の“新鮮さ”が魅力の直売所には、今こそ昔懐かしいシャリ感を添えて、旬のおいしさを満喫できるスイカを出荷しませんか？ ここでは、より品質にこだわった品種をおすすめしたいと思います。

おすすめしたいこの品種！

最もおすすめしたい品種は「紅まくら」です。その際立つ甘みは、酸味の少なさによります。糖度計の値よりも豊かに感じられる甘みと、歯触りのよいシャリ感、独特の芳純な風味が相まって、スイカの醍醐味を十分に満喫できます。

果重7～8kgの大玉種で着果が安定し、空洞果や裂果も少なく、栽培しやすい品種です。果形はやや長めの枕形で、品質のよさに加え、独特の果形が特長です。

**甘い香りで高糖度！
市場性抜群の大玉枕形スイカ！**

タキイ交配 **紅まくら**®

栽培期	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
播 種										
定 植										
一 般 地										
トシキル										
露 地										

中生



ブリーダーズ・アイ

黄肉中玉の「シュガームーン」

「シュガームーン」は果肉が鮮やかな黄色で、クリーム種独特の爽やかな風味が特長です。一家だんらんのデザートに使いやすい4kgほどの大きさで、糖度も12度程度で高く安定します。外観は、高球形で細い縞模様が入ります。また、着果が安定し、果実の割れも少なく栽培しやすい品種です。収穫適期は、交配後約40日が目安です。品質のよさが特長なので、試し切りで果肉の色や食味、糖度を確かめてから収穫してください。



↑着果が安定し、割れも少なく栽培しやすい「シュガームーン」。

圃場準備と植え付け

スイカはあまり土質を選びませんが、多湿条件は苦手なので、排水のよい場所を選び、20cmほどの高畝にします。肥料は10㎡当たりチッソ、リン酸、カリ200gずつを目安に表土全面に施し、よく混和してから畝を立てましょう。

小さい苗は寒さに弱いので、定植時期は一般地であれば5月中旬以降が好適です。畝はマルチを張って保温を図り、キャップや簡易トンネルで夜の寒さをしのぎます。

適切な着果節位を守り、果形を安定

一般に交配期の草勢・水分・温度不足は、幼果の果形が乱れる（肩流れ、尻太果）要因となります。

果実を養うには十分な葉枚数が必要で、着果節位は18節前後の3番花以降が適切です。低節位（14節以下）の着果は、変形果の発生が懸念されます。

「紅まくら」は果形が枕形なので、肩が流れると丸玉のスイカよりもいびつに見えやすくなります。温度と水分環境のよい状態で、着果節位を守って果実を着けてください。



↑ 整枝適期のスイカ。より揃った良品を収穫するためには整枝作業を行い、秀品率を上げる。

交配期の草姿の見方

交配期の理想の草姿は、雌花の開花位置がつる先から30～50cm、つる先の高さが10cm以下、雌花からつる先までの展開葉3～4枚が目安です。

草勢が強く、つるボケで3番花の着果が不安定になりそうであれば、15節前後の2番花に着果させ、草勢を安定させます。逆に生育が弱ければ（低地力、少肥、過乾燥）灌水や追肥で草勢を回復させ、4番花（24節前後）以降の着果で商品価値を上げます。

収穫前の水分管理で高糖度に

果実の糖度を高めて酸味を抑えるために、着果（開花）から1カ月ほど経過したところより徐々に灌水量を減らし、果実の水分量を下げて糖度の上昇を図ります。

トンネルやハウス栽培なら、降雨による糖度への影響や裂果の危険も緩和し、栽培がより安定します。



↑ 降雨の影響を受けず、栽培がより安定するトンネル栽培などで、糖度の高いスイカを収穫したい。

病虫害の防除

疫病などの病害を予防するには、雨による土の跳ね上がり避け、茎葉が直接土に触れないよう敷きわらなどを行います。また、込みあわないよう、つるを均等に配置し、風通しを図って病害菌の増殖を防ぎます。

アブラムシやダニなどの虫害は、梅雨が明けて気温が上がってきたら特に注意します。虫害が広がると葉が傷んで光合成が不足し、果実の肥大や品質に影響します。

病虫害は、広範囲に発生してからでは防除は困難です。早期に発見し、丁寧に薬散を行って初期防除に努めることが肝要です。

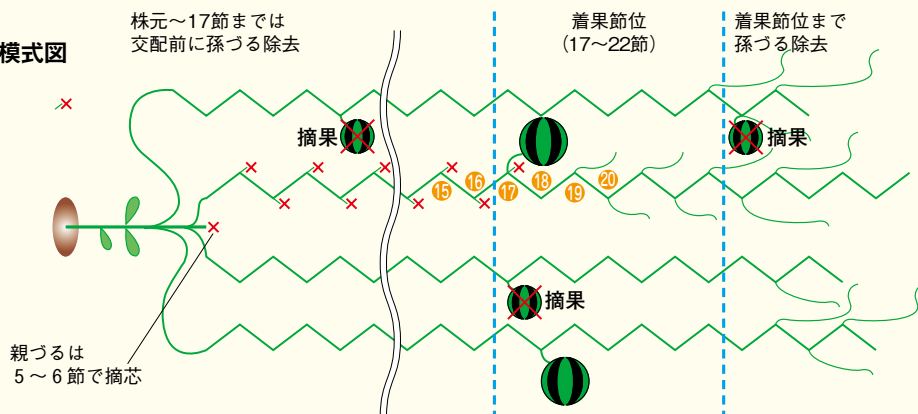
子づる4本整枝 2果どり栽培の模式図

✕ 整枝

株元～17節までは
交配前に孫づる除去

着果節位
(17～22節)

着果節位まで
孫づる除去



ニガウリ

機能性成分にも注目！



ニガウリ担当
木村 哲

直売所出荷向きの品種選定

近年の健康志向から、野菜の機能性成分が注目を浴びています。ニガウリに含まれる独特の苦み成分（モルデシン）は、食欲を増進させるほか、肝機能を高め、血糖降下をもたらす効果が知られています。ニガウリは、低温に注意すれば暑さや病気に強く育てやすいので、気軽に取り組んでみてください。

ブリーダーズ・アイ

家庭で始めるエコ活動
緑のカーテンに最適！「島さんご」

「島さんご」の果実は長さが20～25cmで胴張りよく整い、秀品率の高いことが特徴です。果皮色は濃緑で商品性が高く、果肉はかためて歯ごたえのある食感が味わえます。

晩生種なので収穫始めは遅いですが、茎葉が茂ってくれば安定して雌花が着生し、着果もしやすくなります。生育は旺盛でつるもちが良好なので、長期間の収穫が可能で、「緑のカーテン」用としても最適です。ご家庭はもちろん、直売所の壁面を緑のカーテンで仕立てれば、目も引き、名物となるでしょう。

夏においしいこの苦み！
そろいのよい
短太ニガウリ！

しま
タキイ育成 島さんご

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
冷期										
適期										
暑期										

果長が約35cmのニガウリ！
油炒めや酢の物に！

おお なが
さつま大長れいし



ブリーダーズ・アイ
おすすめ

外観に特徴のある3品種！

鮮やかな緑色の「太れいし」は、果長15cmほどに肥大する短太型ニガウリで、秀品率の高いことが特徴です。また、雌花は比較的多く着生するので、初期から収量が上がります。

「白れいし」はニガウリの中でも珍しい白皮で、外観が美しい品種です。果実の長さは15cm程度の短形によく揃います。また、ニガウリ特有の苦みが少ないので、苦みが苦手な方向きです。雌花性は低いですが、茎葉が茂ってくれば安定して着生するので、長期どりが可能です。

鹿児島県の伝統野菜に指定されている「さつま大長れいし」は、その名の通り果長35cm以上に大きくなる長形ニガウリです。苦みが強いので機能性成分の高さをアピールできます。スタミナがあり、雌花性も安定しているので、長期出荷が可能です。

果長が15cmほどのニガウリ！
油炒めや酢の物に！

ふと
太れいし

ブリーダーズ・アイ
おすすめ



ブリーダーズ・アイ
おすすめ

夏バテ防止の健康食！
苦みが淡い
白皮のれいし！

しろ
一代交配 白れいし



ブリーダーズ・アイ
おすすめ

品種特性を生かし、質のよい果実を長期間安定して収穫するための栽培ポイントについて解説します。

温度を十分に確保する



↑定植には最低気温15℃以上を確保することがポイント。ここから逆算して播種期を決める。

ニガウリは高温性の作物です。低温には弱いので、極端な早まきは禁物です。播種期は、畑に定植するころの最低気温を15℃以上確保できる時期から逆算して決定します。発芽に必要な土の温度は25～30℃です。うまくいけば3～4日で発芽してきますが、発芽までは温度の維持とともに

土の表面が乾かないように注意しましょう。

畑は排水のよい場所を選びます。特に雨の度に水がたまるようでは、根が傷み、生育不良を起こすので注意が必要です。土壤水分を安定させ、地温を確保するためにも黒マルチを張っておくとよいでしょう。

栽培期間が長いので、元肥は肥効が緩やかな緩効性肥料を主体とします。目安として、10㎡当たり成分量でチッソ150g、リン酸200g、カリ150gぐらいを基準に施します。



→
ニガウリは排水のよい場所で栽培し、緩効性肥料を主体に施肥して長期栽培に備える。

栽培Q&A

Q.なかなか発芽しないのですが？

A.ウリ科の中でもニガウリは種子の殻が特にかたいので、発芽しにくい場合があります。種子の中に水分が十分に行きわたることが大切なので、種子の先端をハサミで切り、一晩水に浸けておくと発芽しやすくなります。



↑
ニガウリの種皮はかたいので、適した処理を行って発芽を促す。

Q.実がつかないのはどうして？

A.ニガウリは受粉しないと着果しないので、自然のミツバチ訪花または手交配が必要です。手交配なら朝の早いうちに柱頭にたっぷり花粉をつけ、着果させます。

つるの仕立て方

ニガウリは果実が地面に接すると傷むので、「キュウリネット」などを利用した立体栽培が適しています。親づるを本葉6～7枚ぐらいで摘芯し、子づるを4～5本伸ばして誘引します。支柱の先端までつるが伸びたら先端を摘芯し、孫枝の発生を促します。孫枝は原則として放任とし、込みあう部分のみ整枝や摘葉を行います。株間は広めに、1mぐらいが適当でしょう。

適期収穫に努める

ニガウリの収穫適期は、「島さんご」で果実の長さが20～25cm、「白れいし」は15cm程度になったころです。適期を過ぎると果実が黄色く変色して商品価値が低下するので、品種ごとに大きさを把握し、収穫が遅れないようにしましょう。



↑収穫適期を過ぎ、黄色くなったニガウリ。

壁面「緑のカーテン」利用時の注意点

「緑のカーテン」を作るには、横に伸びる孫枝を十分に伸ばすことがポイントです。そのためには子づるを2m程度伸ばしたら先端を摘芯し、孫枝の発生を促します。また、孫枝が茂るころからは蒸散量も増えるので、プランターなど根域を制限した栽培では特に水不足に注意し、十分な灌水を行います。実が着きだしたら2週間に1回、液肥や化成肥料で養分を補いましょう。



↑壁面を覆う「緑のカーテン」の一例。ポイントは、孫枝を十分に伸ばすことと灌水管理。

オクラ

新鮮オクラを毎日出荷！



オクラ担当
浦霜 聡一

直売所出荷向きの品種選定

オクラの独特のぬめりは食物繊維によるものです。また、ビタミンA、B₁、C、ミネラル、カルシウムなどを豊富に含み、夏ばて防止の健康食として人気の高い野菜です。栽培面では発芽からの初期生育にさえ注意すれば、比較的容易に取り組むことができます。毎日収穫して連続出荷ができることも、直売所出荷に向いているといえるでしょう。



↑食物繊維によるオクラ独特のぬめり。

定番の5角莢種

“トンネル・ハウス栽培での早出し”をねらうには極早生品種の「アーリーファイブ」を、“露地栽培での長期収穫”にはよりスタミナのある「グリーンソード」をおすすめします。

「アーリーファイブ」は莢色が濃く、莢の揃いがよい極早生品種です。初期から収量が多く、価格が高い初夏の出荷に力を発揮します。一方「グリーンソード」は「アーリーファイブ」ほど早生ではありませんが、草勢が強く栽培後半まで生育が旺盛です。また、イボ果の発生が極めて少なく莢色がさらに濃いので、作を通して商品性が高いのが特長です。

この2品種なら、収穫の主体が前半に来る「アーリーファイブ」と後半型の「グリーンソード」という使い分けができるので、2品種を半分ずつ栽培するのもよいでしょう。



極早生で
濃緑の5角莢種！
イボ果や曲がり果の
発生が少ない！

（タキイ交配）**アーリーファイブ**

栽培型	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120
ハウス										
トンネル										
露地										
ハウス前										



特長のある品種

「ベニー」は莢色が紫紅色の5～6角莢種で、店頭に彩りを添えてくれます。「クリムソン・スパインレス」は平均8角にもなる多角オクラで、スーパーマーケットで見かけることが少ない特徴的な形の品種です。これらの品種は色や形が珍しいので、調理方法や輪切りのサンプルを出して陳列しましょう。



紫紅色のオクラ！
畑の彩りも鮮やか！

（タキイ育成）**ベニー**

栽培型	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120
トンネル										
露地										



ブリーダーズ・アイ

丸オクラ「エメラルド」

丸オクラの「エメラルド」は、通常の5角のオクラよりも莢がやわらかいという特徴があります。莢がやわらかいため食感がよく、食味のよさをアピールすることができます。

また、通常のオクラは10cm以上の長さになると筋張って食味が落ちますが、「エメラルド」は15cm程度まで大きくしてもかたくなりにくいので、収穫期に幅を持たせることができます。

包装規格 内容量、価格は2010年4月末まで有効です。

追肥重点の肥料設計

オクラは吸肥力の強い作物のため、追肥重点で肥料設計を立てます。元肥の施肥量は10㎡当たりの成分量で、チッソ150g、リン酸100g、カリ100gが基準です。追肥開始時期は株当たり、1～2莢を収穫したところからです。1回の追肥量は10㎡当たりチッソ成分量で20gとします。液肥で施す場合はチッソ成分10gとし、こまめに行いましょう。肥切れは不良果の原因となるので、遅れないように実施します。

播種時期の設定とトンネル栽培



↑トンネル栽培で早出しをねらう場合は、播種前に地温を上昇させておくことが大切。

早出しをねらってトンネル直播栽培をする場合、播種の2週間前にはマルチとトンネルを張って、地温を上昇させておきましょう。トンネルを利用することで、中間・暖地では4月中旬からの直播が可能になります。

地温が低いと発芽不良になりやすく、苗立枯病の被害も増えるので、早まきには地温の確保が重要です。さらに温床で育苗を行えば、直播の場合より15日ほど早まきをすることが可能です。育苗の際は9cmポットに4粒ほど播種し、本葉3枚程度で定植を行います。

直播する場合、中間・暖地では5月に入ってから播種を行うのが標準です。

適した栽植密度

トンネル・露地栽培では畝幅150～180cm、株間25cmの2条植えを基本とし、1穴に4～5粒を播種し、発芽が揃って立ち枯れの心配がなくなったら3株に間引きます。無加温のハウス栽培の場合は少し広めに株間を取った方がよく、株間を30cm、2株立ちを基本とします。

秀品率アップのコツ

適期収穫 オクラは大きくなると筋張って食味が低下するので、長さ8～10cmで収穫するのが適当です。しかし、先にも触れたように、丸莢の「エメラルド」だけは大きくなってもかたくなりにくいので、長さ14～15cmまで収穫が可能です。



↑長さ8～10cmを目安に収穫すると、食味のよいオクラが収穫できる。

イボ果・曲がり果を防ぐ オクラの収量・秀品率を上げるポイントは、いかに「イボ果」「曲がり果」の発生を少なくするかです。これらの障害は、極端な草勢の強弱などのストレス条件で多くなります。収穫遅れや追肥遅れに注意して草勢を安定させ、ストレスを軽減することで発生が少なくなります。葉が小さく切れ込みがなくなり、色が薄くなっている場合は、草勢が弱っていると判断してよいでしょう。

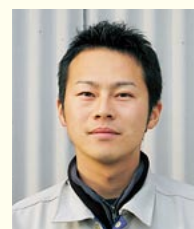
また、オクラは土が少々乾燥してもなかなか萎れないので、灌水不足になりがちです。水分不足によってもイボ果・曲がり果の発生が引き起こされ、草勢低下の原因にもなるので、開花後はこまめに灌水を行いましょう。

栽培管理 オクラ栽培は栽植密度が高いため、摘葉を怠ると光線の透過が悪くなり、病虫害の発生や莢色の低下など果実品質の低下を助長します。収穫節の直下の葉を2枚残し、これ以下の葉を摘葉します。



↑収穫節の直下の葉2枚を残し、これより下の葉を取り除くことで品質を維持する。

スイートコーン



スイートコーン担当
池末 龍児
いけすえ りゅうじ

“もぎたての甘さ・おいしさ”をアピール！

直売所出荷向きの 品種選定

スイートコーンは直売所での人気が高い作物ですが、それは「収穫したての新鮮な甘さ・おいしさ」があるからです。スイートコーンは収穫後の糖度の低下が早いいため、もぎたてのおいしさを提供できる直売所におすすめの作物です。この特長を利用して、お客さんの心をつかちりつかみましょう。今回は特に食味がよく、栽培性が安定しているイエロー種「おひさまコーン88」と、バイカラー種「カクテル84EX」をご紹介します。



おすすめ品種！ 「おひさまコーン88」の特長

「おひさまコーン88」は粒皮が特にやわらかくて糖度が高く、クリーミーな味わいを楽しめる極良質の黄色種です。中間・暖地のマルチ栽培では播種後約88日で収穫可能な中生種で、420 g 前後（苞葉付き）の大穂が収穫できます。

ブリーダーズ・アイ

抑制栽培で作ってみよう！

「おひさまコーン88」は88日タイプの中生種なので、秋に収穫できる抑制栽培に適します。スイートコーンが少ないこの時期に販売し、売り上げアップをねらってみては？！

バイカラー種 「カクテル84EX」の特長

「カクテル84EX」は黄色い粒と白い粒が混じるバイカラー種で、粒皮がやわらかく、糖度が高いのが最大の特長です。播種後約84日で収穫可能な中早生種で、400 g 前後（苞葉付き）の穂が収穫できます。先端不稔が極めて少なく、穂の揃いは抜群です。黄色粒の色が濃いので白粒とのコントラストが美しく、見栄えがします。また苞葉の色が濃く、新鮮感が持続します。

ボリューム・甘さ満点！
多収をねらう黄色粒の極良質強甘味種！

一代交配 おひさまコーン88（極良質強甘味種）

栽培期	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
冷涼地 マルチ									
中間地 マルチ									
暖地 マルチ									
冷涼地 露地									
中間地 露地									
暖地 露地									

収穫日数 88日

平均穂重 420 g

以下の栽培ポイントを参考にして、おいしく大きなスイートコーンを収穫してください。

丈夫な株をつくるための土づくり

丈夫な株をつくるためには、しっかり根を張らせることが重要です。多めに堆肥^{たいひ}を施し、深耕して高畝にしましょう。

元肥はチッソ、リン酸、カリの成分量で10㎡当たりそれぞれ200～250 gを施します。

播種のポイント

発芽をより安定させるためには、地温を14℃以上確保してください。14℃を下回る場合は、マルチやトンネルを張りましょう。



栽植数は10㎡当たり400～450本程度で、畝幅150～160 cmの2条まきで株間30 cmくらいが適当です。

← 地温14℃以上を確保するためには、トンネルまたは写真のようにマルチを張るのがおすすめ。

追肥のタイミング

大きな穂を収穫するためには、丈夫な株をつくることが重要になります。そのために本葉6～8枚ごろと雄穂出穂期の2回、それぞれチッソ成分量で10㎡当たり50 gを速効性肥料で施します。

適度な水分を

水分不足は糖度不足、先端不稔、穂の肥大不足につながります。特に1回目の追肥時期以降は急速に生育が進むので、乾燥させないように適度な水分管理を行ってください。



→ 品質を低下させないためには灌水を行い、適度な水分管理を行う。

害虫防除は早めの農薬散布で

スイートコーンで問題になりやすい害虫は、アブラムシとアワノメイガです。アブラムシは早期の発見、農薬散布が有効です。アワノメイガは幼虫が穂に穴をあけ、中に入って絹糸や粒を食べます。中に入ってしまうと、農薬を散布してもほとんど効果がありません。雄穂の出穂期から雌穂の出穂期にかけては幼虫がつきやすいので、この時期の早めの農薬散布を心掛けます。



↑雄花（写真左）と雌花（絹糸：写真右）。雄穂の出穂期から雌穂の出穂期にかけては早めに農薬を散布し、害虫防除を図る。

品質のよさを生かす収穫とは

絹糸抽出日から21～25日ごろが収穫適期です。収穫期が近づいたら試しむきをして、先端の子実の状態を確認します。肥大して黄色に変わっている状態になれば収穫適期です。早朝に品質が最も高くなるので、朝早く収穫してすぐに店頭に並べるようにすれば、品質のよさを最大限に生かすことができますでしょう。



↑果実の温度が上がらない早朝に収穫してすぐに陳列すれば、“もぎたてのおいしさ”を提供できる。

新しい食べ方の提案

ナイフでカットしてサラダに！

もぎたてのスイートコーンの粒をナイフでカットし、サラダやスープに利用すると缶詰のコーンとは違ったおいしさが楽しめます。また、食べきれない場合も切り離れた粒を冷凍しておくと、料理に使いやすく便利です。

出荷のヒント

販売に一工夫

スイートコーンは「おひさまコーン88」のような黄色種、「カクテル84EX」のように黄色と白色の粒が混じるバイカラー種、「ルーシー90」のような白色種があります。これらをリレー出荷など組み合わせると需要を刺激し、販売促進が期待できると思います。

エダマメ



エダマメ担当
奥原 和武

こだわりの食味を鮮度とともに出荷する！

直売所出荷向きの 品種選定

最近では莢付き、莢の大きさや色の濃さといった外観もさることながら、食味のよさも品種選びの重要なポイントとなっています。市場では茶豆や黒豆といった特徴ある食味の品種が増えていますし、各所の直売所や道の駅でも、在来品種や独自品種を地域特産品目としてブランド化を図る傾向も見られます。

そこで、今回は特に食味にこだわった品種をご紹介します。

黒豆タイプ

このタイプは特有のコクと甘みで人気があります。「^わ早生黒頭巾」と「^せ快豆黒頭巾」は早生～中早生種で、草姿は小葉・立性で草丈もあまり高くないため、倒伏しにくく、密植栽培にも向きます。

外観重視で白毛品種を好む場合や、トンネルでの早出し出荷をねらうには、早生の「早生黒頭巾」がおすすめです。「快豆黒頭巾」は下部からの着莢が優れているため、ボリューム感があり、特に枝付き束出荷に最適です。遅まきのトンネル栽培から露地栽培が最適作型になります。

「^{のうひめ}濃姫」は枝が太くがっちりした草姿で、分枝発生に優れた中早生の多収種です。毛茸は茶色ですが、黒豆品種の中では莢や葉の黄化が遅いため、ある程度の余裕を持って収穫できます。

茶豆タイプ

山形県の庄内だちや豆に代表される茶豆品種は、甘み・うまみとともに独特の香りがあり、一度食べたらクセになる印象深いおいしさです。「^{ふくなり}福成」は茶豆の中早生種で、莢はやや小ぶりですが、着莢数が多く、茶豆特有の風味豊かな味わいが楽しめます。草丈は低めなので倒伏の心配も少なく、栽培しやすい品種です。

普通エダマメタイプ

このタイプの中では、甘みが強く食味に優れた「^{ふうき}富貴」がおすすめです。茶豆や黒豆は独特の風味が特徴的ですが、中にはクセのない食味を好む消費者もいらっしゃいます。早生～中早生の熟期で、分枝数が多く莢付きがよいため、着莢数が多く多収になることが特長です。草勢が強めで耐暑性にも優れるため、安心して栽培できます。



ブリーダー
おすすめ

大莢がたくさんつく！
中早生の白毛種！
味も抜群！

白毛

熟期 80日

タキイ育種 富貴

栽培型	2	3	4	5	6	7	8	9
ハウス								
トンネル								
播種期								
収穫期								
生育日数								
備考								

過繁茂にさせないために

生育が旺盛すぎて過繁茂になってしまうと、倒伏や着莢不良といった弊害が生じます。過繁茂にさせないためのポイントを2点挙げます。

チッソ肥料の多用は禁物！ 根粒菌の働きを生かす

エダマメは土壤中に生息する根粒菌と共生し、空中チッソ固定を行っています。根系の発達とともに、開花開始ごろからチッソ固定のピークを迎えますが、この根粒菌との関係を有効に保つことが、過繁茂の防止と適正な草勢維持につながります。

根粒菌の着生を促すには、「良質^{たいひ}な堆肥を投入し、土壤中の気相と微生物相を豊かにする」「元肥のチッソ施用は少なめに、リン酸およびカリを多めに施す」「土壌のpHは6前後のややアルカリ性が適する」以上3点がポイントです。

移植栽培も効果的 エダマメは直根性の作物で、本来あまり移植を好みませんが、逆に移植することで初期生育が抑えられ、結果的に過繁茂の防止となります。生育が強くなりやすいトンネル栽培や、コンパクトな草姿に仕上げたい枝付き結束出荷に有効です。

移植栽培では初生葉が展開し、本葉が見えたころが定植の適期です。

おいしいエダマメを陳列するために

播種の工夫で適期収穫を心掛ける 黒豆や茶豆は莢や葉の黄化が比較的早く、収穫適期が短いといった特性があります。収穫遅れになると粒がかたくなったり、甘さや風味が落ちて品種の特長が生かせません。そこで、播種の際には熟期の異なる品種を同時にまいたり、同じ品種でも播種期をずらすことで、適期収穫が可能になります。

鮮度保持の方法 エダマメは「なべに火をかけてから収穫に行く」といわれるほど、収穫後の食味の低下が著しい作物です。莢温が上がらない午前中に収穫し、涼しい場所で調製してください。予冷・保冷を行うことも効果的です。



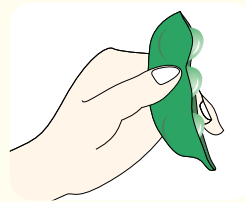
↑実がかたくなって風味が落ちないように、収穫は適期に行う。

エダマメの消費が増えるのはビールのおいしい6～8月ですが、同時に店頭も高温になりやすく、品質保持にはやっかいな時期でもあります。いろいろな出荷形態がありますが、根も残したまま枝付きで束ね、根を水に漬けておくのが品質保持には一番効果的です。莢を袋詰めする場合は、莢を枝からはずさずに枝を切って出荷する方法（切り枝出荷）もあります。詰める袋も近年改良が進み、微細な穴が開いている鮮度保持フィルムもありますので、ご検討ください。



↑収穫後は涼しい場所で手早く調製することがエダマメの鮮度を維持するコツ。

莢がふくらんで、指で押さえると中の豆が飛び出すようになれば収穫の時期。収穫が遅れると、実がかたくなる。



エダマメの住みやすい環境とは…

発芽適温

発芽適温は25～30℃で、15℃では遅延し、10℃以下では極めて発芽不良となります。

生育適温

生育適温は20～25℃ですが、花芽の分化はおおよそ15℃の温度が必要です。

土壌適応性

どのような土質でもよく生育しますが、排水のよい耕土の深い壤土、あるいは粘土質土壌が適し、保水力のある土壌でよい生育をします。火山灰土では茎葉が繁茂しすぎて着莢不良になりがちです。

土壌酸度

pHは6.0前後が適当です。

インゲン



インゲン担当
河西 孝昭
かわにし たかあき

特徴のあるインゲンで注目度もアップ！

直売所出荷向きの品種選定

インゲンには、ビタミンB群、ビタミンC、カロテン、カリウム、カルシウムなど多くの栄養素や食物繊維がたっぷり含まれており、カロリーも低いため、ヘルシーな緑黄色野菜として注目されています。

莢の形状によって多くのタイプに分類されており、やや子実の凹凸が目立つ莢の「どじょうタイプ」、子実の凹凸が少なくスムーズな形状が特徴の「関西タイ

プ」などの代表的な丸莢タイプや、扁平な大莢が特徴の「モロッコタイプ」などがあります。このように、インゲンにはバラエティー豊かな品種が存在するため、栽培する品種を工夫することで直売所を訪れた消費者の目を容易に引きつけることができます。ここでは、特徴的な2品種をご紹介します。

特におすすめ！ つるあり種「モロッコ」

「モロッコ」は長さ約15cm、幅1～2cm程度の大莢で、大きな子実の凹凸が現れる扁平な莢が特徴の「モロッコタイプ」の代表品種です。甘みがあって非常に美味しく、多肉質で厚みがあるため、粘りのある独特の食感が楽しめます。草勢が強くて作りやすい上に、花つきが良好で鈴成りに莢がつくため収量性が高くなり、長期収穫も可能です。また、「モロッコタイプ」のインゲンは、市場に流通する量が少ないため珍しく、直売用としておすすめです。

省力タイプのつるなし種「さやっこ」

「さやっこ」は、子実の凹凸が少ない「関西タイプ」に含まれる丸莢のインゲンです。長さ11～13cmくらいの小莢ながら、真っすぐに美しい秀品が多く収穫できます。お浸しなどの和食や、洋食のつけあわせとしても利用することができ、汎用性が高い莢形です。

「さやっこ」の最大の特徴は、開花・着莢時期が短期間に集中するため揃いのよい莢が一斉収穫できることです。株ごと収穫して店頭に並べ、新鮮さをアピールすると、消費者の目を容易に引きつけることができるでしょう。栽培面では、つるなしタイプのため誘引作業が不要である、栽培期間が短くて済むなど、省力のメリットもあります。播種日をずらした段まきをすると、長期出荷にも対応できます。



一斉収穫できる
省力タイプの小莢インゲン！

タキイ種苗 さやっこ®

栽培期	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ハウス									
トンネル									
平壌地									
冷温地									
ハウス									



→
株ごと収穫することも可能な
「さやっこ」で、さらに鮮度を
アピールすることも可能。

よい土壌で栽培する

インゲンは連作障害が出るため、同じ圃場で繰り返して栽培する場合は、少なくとも3～4年の間隔をとることが大切です。耐湿性が弱いので排水のよい土壌を好みますが、高畝栽培などをすれば水田転換畑でも栽培は可能です。また、通気性の高い土壌ほど根張りがよくなるため、有機質を十分に施すことが秀品を多く収穫するポイントです。土壌pHは6前後に保つことで土壌中の根粒菌の活動が活発になり、秀品率向上につながります。

元肥については、「モロッコ」などのつるあり種は、栽培初期の肥料過多による「つるぼけ」を防止するために、10㎡当たりチッソ120g、リン酸200g、カリ120gとし、不足は10㎡当たりチッソ40g、カリ40gを、開花・着莢時期から2週間に1回程度の追肥で補うようにしてください。一方、「さやっこ」などのつるなし種は、10㎡当たりチッソ150g、リン酸200g、カリ200gとし、すべて元肥でまかいます。

夏の暑さや冬の寒さを避ける

インゲンは、1年間に3度収穫できることから「三度豆」と別名がつけられているほど栽培可能な気温が広く、その範囲は10～30℃と言われます。しかし、25℃以上では花粉の稔性が悪くなって着莢率が低下するため、収穫が暑い時期にかからないようにする必要があります。中間・暖地での露地栽培の場合は4月下旬～5月中旬に播種し、7月中旬までの収穫を目指しましょう。一方、抑制栽培では7月上旬～8月上旬に播種し、夜温が10℃を下回る10月下旬までに収穫が終わるようにしてください。

光量不足を防ぐ

過度な密植は、光量不足による落花や莢色の悪化の原因となります。つるあり種は畝幅2m、株間50cm程度で2条まきとし、つるなし種は畝幅1.5m、株間30cm程度で2条まきとします。つるあり種は葉全体に光が当たるよう、ネットでの誘引が必要です。つるなし種も、株の倒伏による莢の腐敗や病虫害を防ぐため、誘引ひもなどで株元を押さえておくといでしょう。



↑落花や莢色の悪化を防ぐためには、光量不足にならないように管理する。

栽培ステージに応じた水肥料管理を！

つるあり種は、栽培初期に草勢が強くなりすぎると「つるぼけ」するので、栽培初期の水分過多を避けましょう。開花・着莢時期は水分が不足すると莢の曲がりや短莢の原因となるため、多めの灌水で適湿を保ちます。



↑つるあり種は栽培初期に草勢が強すぎると「つるぼけ」するので、水分量に注意する。

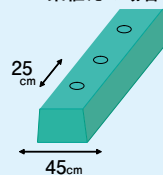
収穫期を逃さない

開花後2週間ごろが収穫の目安です。つるあり種では、収穫が遅れると草勢が衰えてその後の収量減につながるため、毎日の収穫をおすすめします。収穫時にくず莢なども取り除きましょう。つるなし種は2～3日に1回程度、収穫します。

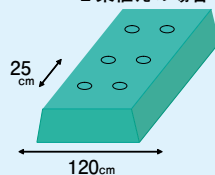
「さやっこ」の一斉収穫栽培のポイント

一斉収穫をねらった栽培密度

1条植えの場合



2条植えの場合



- ・1穴2株立ち。
- ・10a当たりの株数は、13,300本～17,700本。

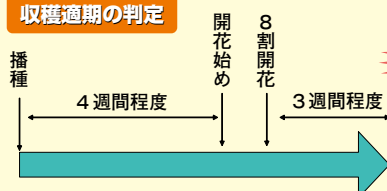
播種面積の決定

一人のできる基本面積の目安：80～100㎡

- ・1シーズンに3回播種。
- ・毎日収穫で12回収穫。

1回目の播種 (基本面積の4～5倍)		2回目の播種 (1回目から10日後)		3回目の播種 (2回目から1週間後)	
収穫2回目	収穫3回目	収穫6回目	収穫7回目	収穫10回目	収穫11回目
収穫1回目	収穫4回目	収穫5回目	収穫8回目	収穫9回目	収穫12回目

収穫適期の判定



収穫適期の目安
莢の老化と収量性の
バランスが重要

地域、気温により最適
日数が前後するので、
各自での検討が必要。

レタス



レタス担当
石田 了

“新鮮”をアピールできる品種を揃えよう！

直売所出荷向きの 品種選定

レタスは比較的、店もちしにくい野菜ですが、常に鮮度のよいレタスを販売することで、直売所全体の鮮度感をアピールできる品目ともいえます。今回は「新鮮」をアピールできる品種と栽培ポイントを紹介します。

玉レタス

「マリア」は玉の太りがよく作りやすい品種で、トウ立ちが遅く、老化球になりにくいみずみずしいレタスです。

「ウィザード」は春の低温期でも玉太りよく、球形が安定して作りやすい品種です。歯切れがよく、みずみずしい食感です。

「シーカー」は、春どり後半から初夏どり作型の栽培に適します。玉肥大・晩抽性・形状安定の各特性をバランスよく併せ持ち、結球が緩やかなので新鮮さが長もちします。

「サウザー」は初夏から夏どりの作型に適し、結球性と晩抽性を併せ持ちながら、スパイラル球（球頭が尖る結球障害、タケノコ球）の発生が少ないので、幅広い作型で栽培できます。球色は濃緑で色ツヤがよく、新鮮味あふれる品種です。

レッドリーフ

「レッドファルダー」は低温期～適温期向きで、鮮やかな緑色と葉先の濃赤色のコントラストがきれいな、食欲をそそる品種です。

「サマールージュ」は高温期の栽培に適し、雨や曇天時でも鮮やかな赤に発色するので、店頭を明るく飾ることができます。



初夏～秋どりに適する変形球が少ない早生種！

タキイ育種 サウザー PVP

生育日数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
収穫期											
播種期											
定植期											
収穫期											
播種期											
定植期											

ブリーダーズ・アイ



↑ややコンパクトな大きさと葉枚数も多い「マザーグリーン」「マザーレッド」。

玉レタスのような食感のリーフレタスです！

リーフレタスは玉レタスより栽培が容易です。しかし、葉質がやわらかく、玉レタスのような食感は望めません。「リーフレタスのように栽培容易で、玉レタスに近い食感が欲しい」との声に応えられるのが、「マザーグリーン」と「マザーレッド」です。リーフレタスより玉レタスに近い葉質で、大きさは通常のリーフよりコンパクトなサイズで、葉枚数も多いため、使いやすく食べやすい品種です。

苦みが少なく甘みがある「マザーグリーン」と「マザーレッド」は、玉レタスのような食感を楽しめる。



高温期の発芽について

レタスの発芽適温は18～20℃です。高温期に播種する場合、播種から数本が発芽するまで、直射日光が当たらない涼しい場所に置いてください。

肥培管理について

レタス類は肥料に敏感です。施肥不足は玉肥大・収量不足になります。一方、過剰施肥は変形球・病害の発生や食味・品質の低下につながります。したがって、高品質のレタスを生産するためには、栽培時期に合わせて肥料を増減することが特に大切です。

マルチ栽培の基準施肥量は10㎡当たりのチッソ成分で、4～5月どりなら150～200g、6月どりは120～150g、7～8月どりは100～120gほどですが、^{ひよく}土壤の肥沃度により適宜調整します。

圃場の水分管理

レタスは過湿を嫌うので、排水のよい圃場を選んで作付けします。水田後作など排水の悪い圃場では、高畝栽培を行うことが大切です。

基本的には乾燥ぎみの気候を好みますが、芯葉の立ち上がりからピンポン玉くらいまでの時期は、玉形成の特に大切な時期なので、干ばつの場合は適宜灌水を行ってください。また、結球中期（リーフレタスでは手のひら大程度の大きさ）以降も、食味の向上やチップバーン（縁腐れ症）発生を抑えるために、土壤水分を適湿に保ち、ストレスを与えないことが大切です。マルチを利用すると、土壤水分の乾湿差が少なくなるのでおすすめです。



↑マルチ栽培は、土壤水分の乾湿差が少なくなるのでおすすめです。

病害対策・虫害対策

春から秋どりは、梅雨・夕立・長雨など降雨による細菌性の病害発生が問題になりやすい作型です。細菌性病害の防除は外葉生育期から結球始めまでの間に、降雨前・後でいかに予防散布を行うかがポイントです。

また、虫害としては次の2種に注意します。

ナモグリバエ レタスの生育に適度な気温で発生が多くなります。成虫は黄色に寄る性質があるので、育苗ハウスや圃場に「ペタットイエロー」などを吊ると被害が軽減できます。

オオタバコガ 気温の高い時期に発生が多くなります。フェロモンを利用した交信攪乱剤や防蛾灯などを利用すると被害が軽減できます。

鮮度と食味アップ

鮮度や食味は、熟度・水分・温度などに大きく影響されます。収穫の適期は玉レタスの場合、上から押してわずかに弾力があるものです。断面は葉と葉の間に適度な空間がある、いわゆる八分結球の状態が理想的です。

気温の高い作型は生育スピードが速く、収穫適期が2～3日ぐらいの時もあるため、1回の作付け量に注意します。また、水分は「圃場の水分管理」の項で説明したように、極端な乾湿差を与えないようにします。

気温が高くなれば鮮度の低下も早くなりますが、午前中の気温が高くなる前に収穫すれば、収穫後の店もちがよくなります。

収穫時期別品種選定表

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地												
中間地												
暖地												
	玉レタス		非結球レタス									
			レッドリーフ		グリーンリーフ		その他					
サウザー	カイザー	サマールージュ	サマーサージ	サマーサージ	サマーサージ	サマーサージ	サマーサージ	サマーサージ	サマーサージ	サマーサージ	サマーサージ	サマーサージ
サウザー	シーカー	サマールージュ	サマーサージ	サマーサージ	サマーサージ	サマーサージ	サマーサージ	サマーサージ	サマーサージ	サマーサージ	サマーサージ	サマーサージ
マリア	パークレー	レッドファルダ	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー
スターレイ	ウィザード	レッドファルダ	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー
レイヤード	レガシー	レッドファルダ	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー
シスコ	冬シスコ	レッドファルダ	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー	レッドファイヤー

※この表は概ねの品種適作型を示すものです。詳しい適作型は品種ごとにご確認ください。

出荷のヒント

「ガーデンベビー」のポット販売

ベビーリーフが手軽に楽しめる「ガーデンベビー」のポット栽培を、玉レタスやロメインレタスに添えて出荷してはいかがでしょうか？ その場で収穫したベビーリーフをサラダに散りばめるだけで、手軽に新鮮でワンランクアップしたサラダになり、お客様に喜ばれます。



→ 「ガーデンベビー」をポットなどの適当な大きさの容器で栽培したものを販売することで、付加価値もつく。

ひまわり



池口 英明
ひまわり担当

品種を上手く使い分けて売り場に変化を！

直売所出荷向きの品種選定

ひまわりは短期間で栽培できるため、ほかの作物の間作や少し空いた小面積での栽培が可能で、直売所の販売に適した作物の一つです。ひまわりを切り花で販売するには、花を小さく、莖を細くかたく仕上げるのが良品を作るコツとなります。

切り花ひまわりのグローバルスタンダード「F₁サンリッチ」シリーズ！

高品質な切り花として世界中で愛されている「F₁サンリッチ」シリーズは、整った花型で栽培性にも優れているので、直売所販売でも安定出荷が見込める品種として中心的な役割を果たします。タイプは55日、50

日、45日と開花特性により分かれています（第1表）。夏の長日期には早生性の高い45日タイプや50日タイプをメインにし、春や秋の日長がやや短くなる時期には55日タイプと使い分けるとよいでしょう。

ユニークタイプで直売所に彩りと変化を！

スタンダードタイプである「F₁サンリッチ」シリーズに加え、八重咲きの「F₁ダブルクイック」や茶色花品種「F₁クラレット」などで売り場に変化を持たせ、収益向上を図りましょう。今回ご紹介する品種は日長が長いと開花が促進される性質が強いため、夏季中心の作付けとします（第2表）。

第1表 「F₁サンリッチ」シリーズの品種特性

タイプ	品種名	花弁色	芯 色	※標準到花日数比	※草丈比	短日期出荷適性
55日タイプ	F ₁ サンリッチ オレンジ	オレンジ色	黒褐色	10	10	○
	F ₁ サンリッチ レモン	明るい鮮黄色	黒褐色			
	F ₁ サンリッチ フレッシュオレンジ	オレンジ色	緑芯から橙芯に変化			
50日タイプ	F ₁ サンリッチ オレンジ50	オレンジ色	黒褐色	9	8	○～△
	F ₁ サンリッチ レモン50	明るい鮮黄色	黒褐色			
	F ₁ サンリッチ マンゴー50	明るいオレンジ色	黒褐色			
45日タイプ	F ₁ サマーサンリッチ レモン45	明るいレモン色	黒褐色	8	6	△～×
	F ₁ サマーサンリッチ バイン45	透明感のある淡黄色	黒褐色			

注) 滋賀県タキイ研究農場での試験栽培の結果、「F₁サンリッチ オレンジ」を基準（評価値：10）とした時の目安値。栽培環境などで結果が異なります。

第2表 ユニークタイプの品種特性

品種名	花 色	芯 型	長日期到花日数(日)	長日期草丈(cm)
F ₁ スターバースト レモンオーラ	淡レモン色	半八重咲き	60	120
F ₁ ダブルクイック	淡オレンジ色	八重咲き	65	150
F ₁ バタークリーム	クリーム色	一重咲き	50	160
F ₁ クラレット	濃い赤茶色	一重咲き	65	190
F ₁ ルビー	濃いルビー色	一重咲き	50	160

注) 到花日数と草丈は滋賀県タキイ研究農場5月播種時のデータで、地域、環境により異なります。

↑「F₁ルビー」

55日タイプ



F₁サンリッチ
オレンジ



F₁サンリッチ
レモン



F₁サンリッチ
フレッシュオレンジ

50日タイプ



F₁サンリッチ
オレンジ50

45日タイプ



F₁サマーサンリッチ
レモン45



F₁サマーサンリッチ
バイン45



F₁サンリッチ
混合

※F₁サンリッチレモン50、F₁サンリッチマンゴー50、F₁スターバースト レモンオーラ、F₁ダブルクイック、F₁バタークリーム、F₁クラレット、F₁ルビーの小袋はございません。ご了承ください。（編集部）

草丈の低いテーブルひまわりの出荷もおもしろい！

切り花のイメージが強いひまわりですが、矮性種を用いた鉢物での直売所販売もおもしろみがあります。「F1グッドスマイル」なら播種後約55日で開花し、9 cmポットや12 cmポットで栽培すると、ちょうど鉢の直径くらいのかわいいテーブルひまわりが楽しめます。また、大きめの鉢を用いたピンチによる分枝栽培や開花前に花壇苗として販売する方法、6 cmポットでの超小作り栽培など、いろいろ工夫してみてください。



F1グッドスマイル

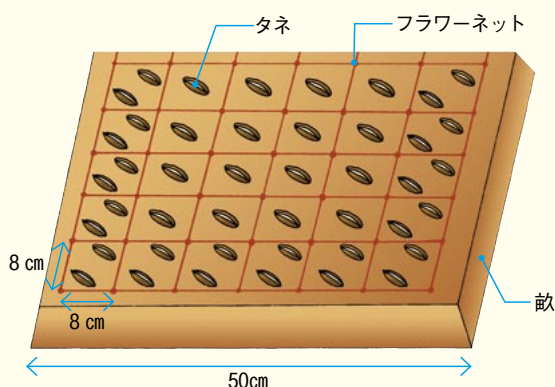


↑ポットや鉢の大きさによりかわいさも変化。
「父の日」をねらってなど、あなたのセンスで用途幅も広がる。

播種

床面50cmの畝に直播で行います。ひまわりは吸肥力が強いので、肥料が多いと茎や葉が大きくなりすぎ商品価値を著しく損います。そのため、前作の残肥を利用するなど、基本的には無施肥で栽培するとよいでしょう。畝にはあらかじめ8 cm角6条目のフラワーネットを張り、ネットのマスに1粒まきします。畝の端が大柄に育ちがちな場合は、端の条のみ2粒まきにするとういでしょう（下図）。

タネは2 cm程度の深さとし、一斉に発芽してくるよう均一な深さになるよう心掛けます。発芽適温は25℃です。播種時の気温が15℃以下や30℃以上になると発芽揃いが悪くなるため、トンネルでの保温や遮光資材で温度上昇を防ぐなどの管理が必要になります。



本葉4枚までの栽培管理

発芽から本葉が4枚展開するところまでのステージでは、畝の上面に乾きが見られたらしっかりと灌水します。この時期に灌水むらが起きると採花まで不揃いな生育となります。畝の端など乾きやすい部分に注意し、均一な生育になるよう灌水管理を行います。

本葉4枚から採花までの管理

茎の伸長に合わせて、播種時に用いたフラワーネットを上げ倒伏を防止します。本葉4枚を過ぎたころからは徐々に灌水を控えていきます。生育後半に水や肥効を抑えることにより茎の伸びすぎを防ぎ、葉や花を小さめに仕上げ、商品価値を向上させます。ただし、水や肥料が必要以上に切れてしまうと奇形花や生理障害の原因となるので、中段くらいの葉色が淡くなるようであれば薄めの液肥を用いて草勢を回復させてください。

収穫

市場出荷の切り前は、花卉の色が蕾の中心にやっと見えてきたころのかなりかたい状態で出荷しますが、直売所出荷では花卉が花の芯に垂直になるころまで開くのを待って収穫するとよいでしょう。しっかり水揚げを行って70cm程度に切り揃え、葉は上部の3枚程度を残し、すべてかきとり出荷します。

ひまわりの連続出荷に挑戦！！

「F1サンリッチ」シリーズは15℃以上の温度を確保することで日長にあまり影響されず開花するよう品種改良されているので、加温施設を利用すれば直売所での周年出荷が可能になります。地域にもよりますが、平坦地を目安にすると5～10月の採花までは無加温、11月～4月までは13～15℃以上の加温ができる施設を用意します。夏場の収穫で10日おきの播種、冬場で7日おきの播種とすることで、ひまわりの連続出荷が可能になります。綿密な計画を立てて、一度周年栽培にチャレンジしてみてください。